

外来職員の免疫獲得の現状と 感染予防に関する認識と知識

2011年2月19日(土) 第26回日本環境感染学会
名古屋市立大学病院 名古屋市立大学大学院看護学研究科
熊本大学大学院生命科学研究部 名古屋市緑保健所

福留元美 矢野久子 脇本寛子 堀田法子 長崎由紀子
脇本幸夫 前田ひとみ 岩田広子 鈴木幹三

背景

- ▶ 入院期間の短縮化や外来化学療法など外来治療の複雑・高度化に伴い易感染患者の外来通院も増加し、外来における感染対策の重要性が増している。
 - ▶ さまざまな患者が交差する外来では、患者-職員間,患者-患者間で感染が拡大するリスクが高いと考えられるが、その対策の検討は十分になされていない。
 - ▶ **医療関係者は感染源・感染伝播者とならないため、あらかじめ感染症の感受性をチェックし必要に応じてワクチン接種による免疫獲得することが推奨されている。**
-



研究目的

多職種で構成され感染症や感染予防に関する教育背景が異なる外来職員のウイルス感染症に対する

- 免疫獲得状態の現状
- 感染予防に関する認識・知識の関連を明らかにする



研究対象と研究期間および倫理的配慮

【研究対象】

A大学病院で外来勤務を行う受付職員，臨床検査技師，中央放射線技師，薬剤師，看護師で同意の得られた者

受付	・・・	50名	看護師	・・・	120名
放射線技師	・・・	22名	薬剤師	・・・	25名
検査技師	・・・	37名			／計254名

【研究期間】

平成21年12月～平成22年9月

【倫理的配慮】

平成21年7月A大学看護学部研究倫理委員会および同年9月A大学病院部長会の承認を得てから実施。

研究方法

1. 質問紙調査

1) 対象の属性 職種 年齢など

2) 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の罹患歴, ワクチン接種歴, 抗体検査歴

3) B型肝炎の抗体検査歴, ワクチン接種歴

4) 感染予防に関する認識・知識と行動の自己評価

◆認識 免疫獲得状態の認識

◆知識 16項目 1項目1点で点数化し16点満点

◆行動 感染予防行動 受付13項目, その他職種14項目を4段階評価で点数化(平均値で比較)

2. 血清抗体検査

麻疹, 風疹, 水痘, 流行性耳下腺炎, B型肝炎の抗体価を蛍光酵素免疫測定(VIDAS)により測定

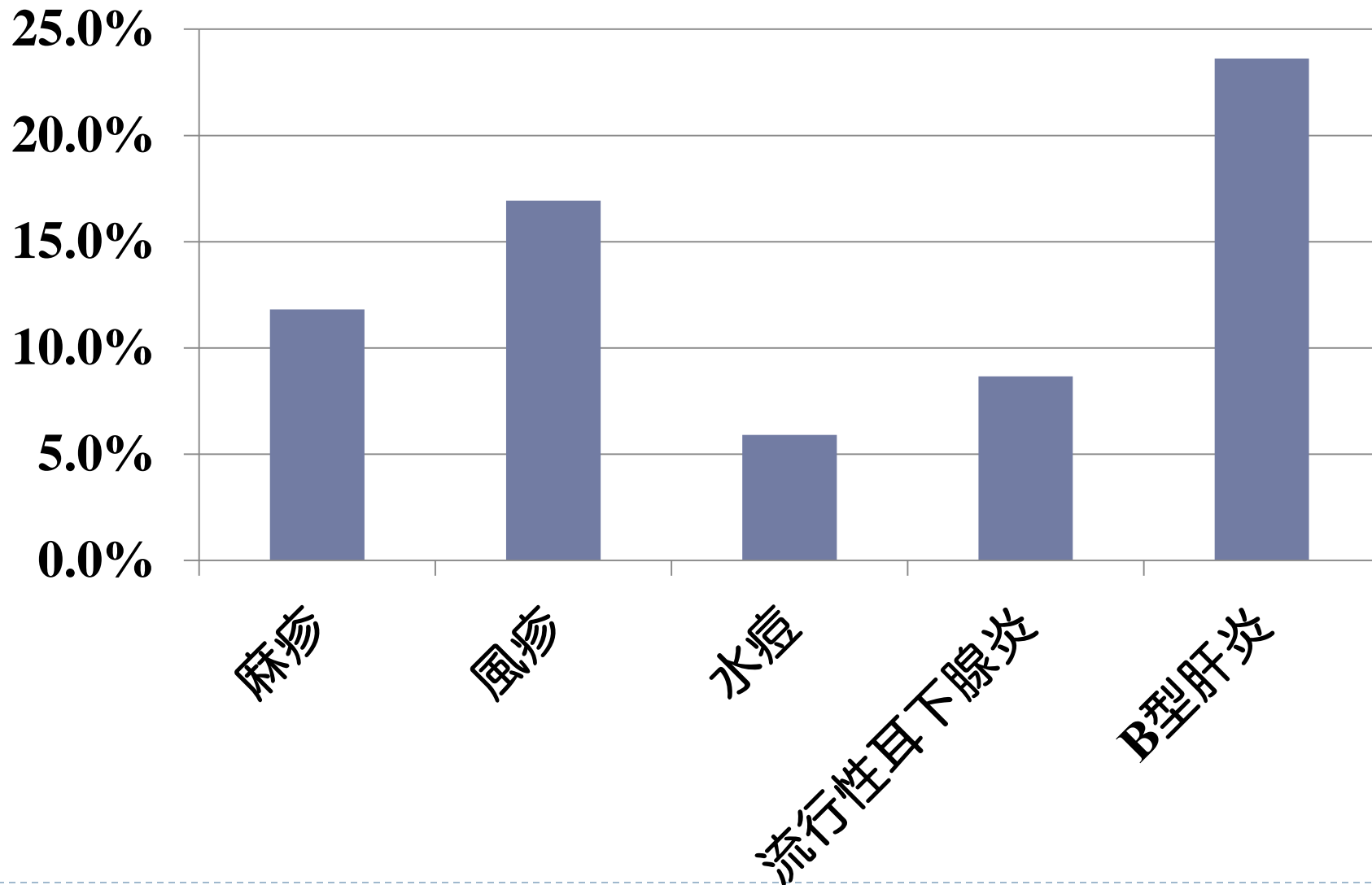
3. 質問紙調査と抗体検査の関連の検討 (SPSS16.0)

結果 対象の属性

職種		受付	看護師	放射線技師	薬剤師	検査技師
	n	50名	120名	22名	25名	37名
年齢	平均±標準偏差	42.7±11.7	32.8±8.9	35.8±9.8	37.0±11.6	41.4±11.4
性別	男	2(4.0)	6(5.0)	17(77.3)	12(48.0)	17 (45.9)
	女	48(96.0)	114(95.0)	5(22.7)	13(52.0)	20 (54.1)
最近1年間の家族の罹患者	麻疹	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	風疹	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	水痘	1(2.0)	6(5.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(2.7)
	流行性耳下腺炎	0(0.0)	4(3.3)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	インフルエンザ	16(32.0)	25(20.8)	7(31.8)	6(24.0)	7(18.9)

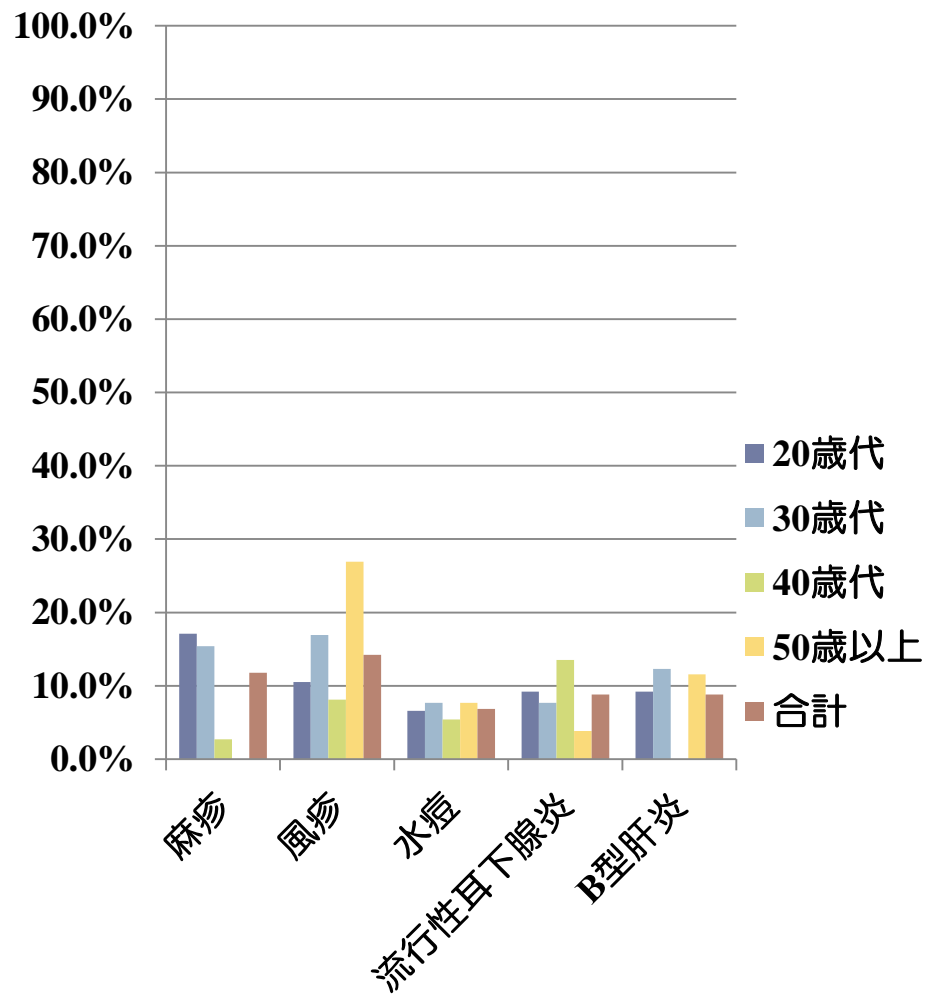
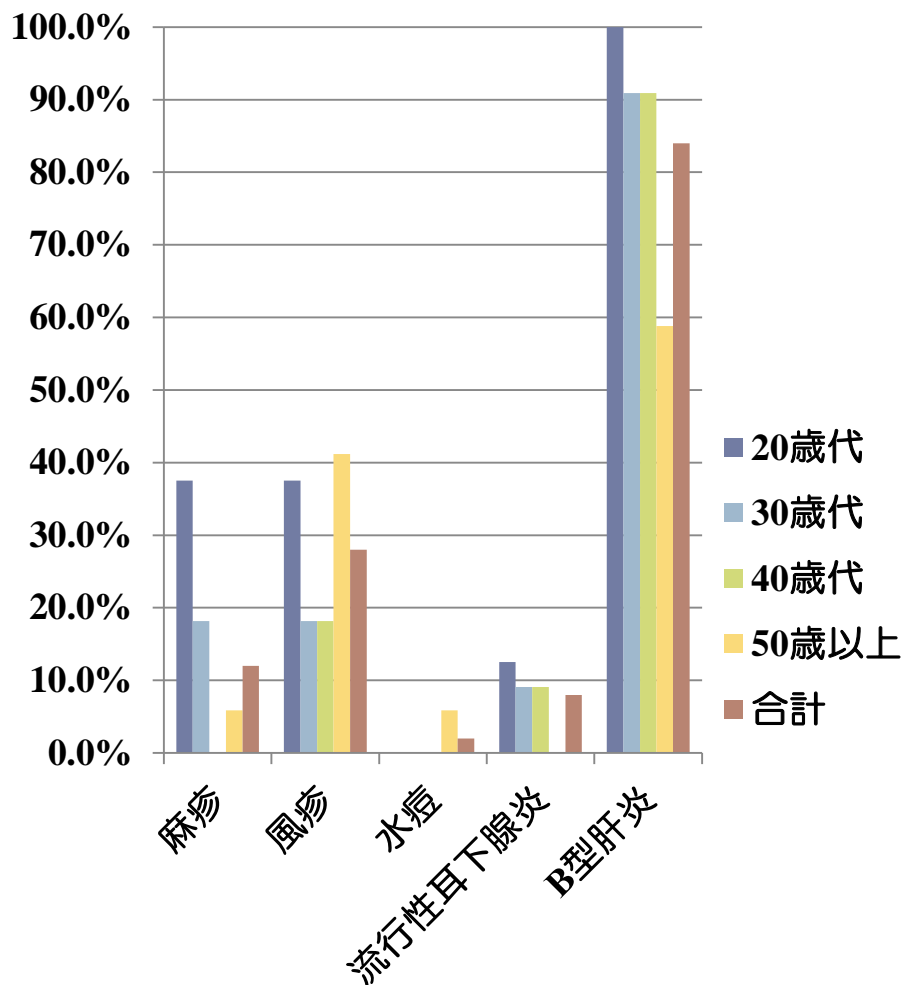
結果 抗体陰性者(判定保留含む)の割合

(n=254)



結果

受付と医療職の抗体陰性者の割合の比較



受付 (n=50)

抗体陰性者の疾患・年代別割合

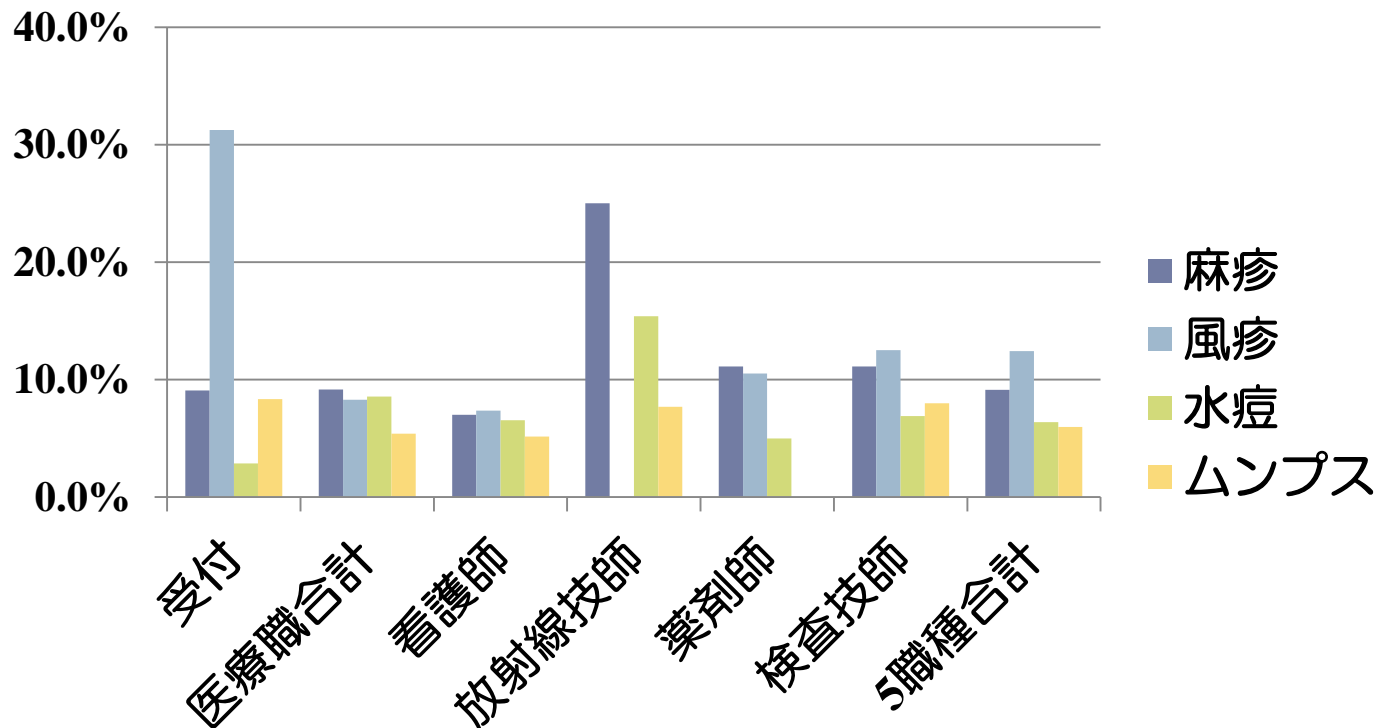
医療職 (n=204)

抗体陰性者の疾患・年代別割合



結果

抗体陰性であったが自分は非感受性と認識している者の割合



◆非感受性者で抗体陰性の割合

	麻疹			風疹			水痘			ムンプス		
	n	陰性者数	%	n	陰性者数	%	n	陰性者数	%	n	陰性者数	%
受付	33	3	9.1%	32	10	31.3%	35	1	2.9%	36	3	8.3%
看護師	100	7	7.0%	95	7	7.4%	107	7	6.5%	97	5	5.2%
放射線技師	8	2	25.0%	7	0	0.0%	13	2	15.4%	13	1	7.7%
薬剤師	18	2	11.1%	19	2	10.5%	20	1	5.0%	13	0	0.0%
検査技師	27	3	11.1%	24	3	12.5%	29	2	6.9%	25	2	8.0%
合計	186	17	9.1%	177	22	12.4%	204	13	6.4%	184	11	6.0%

結果 抗体の保有状況と感染予防に関する知識との関連

		n (%)	知識得点 (16点満点) 平均値 ± 標準偏差	(最小値-最大値)	
麻疹抗体判定	陰性+判定保留	30 (11.8)	9.4 ± 3.7	(2-15)	
	陽性	224 (88.2)	9.9 ± 3.4	(1-16)	
風疹抗体判定	陰性+判定保留	43 (16.9)	8.6 ± 3.5	(1-16)	P=0.009
	陽性	211 (83.1)	10.1 ± 3.3	(1-16)	
水痘抗体判定	陰性+判定保留	15 (5.9)	10.7 ± 2.1	(7-14)	
	陽性	239 (94.1)	9.8 ± 3.5	(1-16)	
ムンプス抗体判定	陰性+判定保留	21 (8.7)	9.7 ± 3.6	(4-15)	
	陽性	233 (91.3)	9.8 ± 3.4	(1-16)	
HBS抗体判定	陰性+判定保留	60 (23.6)	7.9 ± 3.6	(1-14)	P<0.001
	陽性	194 (76.4)	10.4 ± 3.1	(2-16)	

χ²検定

結果 抗体の保有状況と感染予防行動の自己評価との関連

		n (%)	感染予防行動(4段階評価) 平均値±標準偏差		(最小値-最大値)
麻疹抗体判定	陰性+判定保留	30 (11.8)	2.6	±0.6	(1.4-3.9)
	陽性	224 (88.2)	2.6	±0.7	(0.0-3.9)
風疹抗体判定	陰性+判定保留	43 (16.9)	2.5	±0.6	(1.3-3.9)
	陽性	211 (83.1)	2.6	±0.7	(0.0-3.9)
水痘抗体判定	陰性+判定保留	15 (5.9)	2.8	±0.5	(2.1-3.4)
	陽性	239 (94.1)	2.5	±0.7	(1.3-3.9)
ムンプス抗体判定	陰性+判定保留	21 (8.7)	2.4	±0.6	(1.4-3.2)
	陽性	233 (91.3)	2.6	±0.7	(0.0-3.9)
HBS抗体判定	陰性+判定保留	60 (23.6)	2.2	±0.7	(0.8-3.5)
	陽性	194 (76.4)	2.7	±0.7	(1.7-3.9)

]
P<0.01

▶ χ^2 検定

まとめ

- ▶ 抗体陰性者がすべての職種に存在，特に50代以上の風疹抗体陰性率（28.0%）が高く，受付職員の陰性率の高さが目立った。
- ▶ 自己を非感受性者と認識している抗体陰性者も存在するなど，患者-職員間の感染リスクが示唆された。
- ▶ 風疹とB型肝炎では，抗体陽性者は陰性者よりも知識を有していた。
- ▶ B型肝炎以外では，抗体保有状況による感染予防行動の差はなかった。
- ▶ 抗体陰性の状況で外来勤務を行うことには課題があり，職員が免疫を獲得できるように体制を整えることが重要である。

